

教科・科目	芸術・音楽Ⅰ	単位数	2（前期1+後期1）		
		ライン	2	開講期	前期と後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：音楽Ⅰ				

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付ける。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる力を身に付ける。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	<p>音楽Ⅰ改訂版 Tutti+（大修館書店）</p> <p>音楽の鑑賞資料と基礎学習（教育芸術社）</p>

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる力を身に付けている。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	楽典 リズムアンサンブル 発声方法 日本の歌曲を歌おう 様々な国の歌曲を歌おう キーボードを弾こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・試験</li> </ul>
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	西洋音楽史 オーケストラの魅力 日本の伝統音楽 世界の諸民族の音楽 ギターを弾こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・試験</li> </ul>
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前3回、後1回～後3回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。  
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録	
スクーリング 回数	学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日				メディア 利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	① 楽典①（音楽の基礎知識） 「音符・休符」「拍子記号」	前1	1	2	4/19	—	4/21	4/16	第6回		
	3		4								
	② リズムアンサンブル				5/10	—	5/12	5/7			
	③ 楽典②（音楽の基礎知識） 「音楽用語・記号」「音名」	前2	1	2	5/24	—	5/26	5/21			
	3		4								
	④	この回は、実施されません。									
	⑤ 発声方法 日本の歌曲を歌おう	前2				6/21	—	6/23	6/18	第3/ 7回	
⑥ 様々な国の歌曲を歌おう	前3	1	2	7/5	—	7/7	7/2	第20回			
⑦ キーボードを弾こう		3	4								
⑧	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート前1～前3の内容		本試験	追再試	8/23	—	8/25	8/27			
後期	⑨ 西洋音楽史① （古代ギリシャ～バロック）	後1	1	2	10/11	—	10/13	10/8	第8/ 30回		
	3		4								
	⑩ 西洋音楽史② （古典派～近代・現代）				10/25	—	10/27	10/22	第14/17/ 21/25/ 31回		
	⑪ オーケストラの魅力①	後2	1	2	11/8	—	11/10	11/12	第26回		
	⑫		3	4						この回は、実施されません。	
	⑬ 日本の伝統音楽①	後2				12/6	—	12/8	12/3	第9/ 10回	
	⑭ 世界の諸民族の音楽①	後3	1	2	12/20	—	12/22	12/17	第11回		
⑮ ギターを弾こう	3		4								
⑯	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート後1～後3の内容		本試験	追再試	2/7	—	2/9	2/4			

## 6 先生からのメッセージ

レポートでは音楽の基礎知識や音楽史、作品について学習します。鑑賞した作品については、自分の考えたことや気付きを記述しますので、自分の考えが伝わるように丁寧に書くことを心がけてください。また、授業ではリズムアンサンブルやキーボード、ギター等の実技も行います。できるだけすべてのスクーリングに出席しましょう。

教科・科目	芸術・音楽Ⅱ	単位数	2（前期1+後期1）		
		ライン	4	開講期	前期と後期
備考					

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <p>(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる力を身に付ける。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	<p>音楽Ⅱ Tutti+（大修館書店）</p> <p>音楽の鑑賞資料と基礎学習（教育芸術社）</p>

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる力を身に付けている。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	音楽の要素を探ろう 楽典 ソナタ形式の楽曲を分析しよう 様々な国の歌曲の魅力 物語と音楽との関わり 動機から音楽をつくろう	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	楽典 ポピュラー音楽の魅力 オーケストラの魅力 日本の伝統音楽 世界の諸民族の音楽 音素材の特徴を生かして音楽をつくろう	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期 4 回以上、後期 4 回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期 1 回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前 1 回～前 3 回、後 1 回～後 3 回のすべてに合格すること。	
試験	前期 1 回、後期 1 回、それぞれに合格すること。	

## 5 学習の記録

5 学習の記録		添削担当者	先生				登録				
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	① 音楽の要素を探ろう	前1	1		2		4/19	—	4/21	4/16	第2回
			3		4						
	② 楽典③（音楽の基礎知識） 「音程」					5/10	—	5/12	5/7	第6回	
	③ ソナタ形式の楽曲を分析しよう	前2	1		2		5/24	—	5/26	5/21	第15回
			3		4						
	④	この回は、実施されません。									
	⑤ 様々な国の歌曲の魅力	前2					6/21	—	6/23	6/18	
	⑥ 物語と音楽との関わり	前3	1		2		7/5	—	7/7	7/2	
3				4							
⑦ 動機から音楽をつくろう						7/19	—	7/21	7/16		
⑧	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート前1～前3の内容		本試験		追再試		8/23	—	8/25	8/27	
後期	⑨ 楽典④（音楽の基礎知識） 「音階」	後1	1		2		10/11	—	10/13	10/8	
			3		4						
	⑩ ポピュラー音楽の魅力						10/25	—	10/27	10/22	
	⑪ オーケストラの魅力②	後2	1		2		11/8	—	11/10	11/12	
			3		4						
	⑫	この回は、実施されません。									
	⑬ 日本の伝統音楽② 世界の諸民族の音楽②	後2					12/6	—	12/8	12/3	第19/22/ 32/35回
	⑭ 音素材の特徴を生かして音楽 をつくろう①	後3	1		2		12/20	—	12/22	12/17	
3				4							
⑮ 音素材の特徴を生かして音楽 をつくろう②						1/10	—	1/12	1/7		
⑯	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート後1～後3の内容		本試験		追再試		2/7	—	2/9	2/4	

## 6 先生からのメッセージ

音楽Ⅱは、音楽Ⅰを修得した生徒が履修することができ、音楽Ⅰの内容を発展させた学習になります。レポートは教科書や補助プリントをよく見て記入しましょう。また鑑賞した作品について自分の考えを記述したり、メロディや楽曲を創作したりします。授業ではキーボード等の実技も行いますのでできるだけすべてのスクーリングに出席しましょう。

教科・科目	芸術・美術Ⅰ	単位数	2（前期1+後期1）		
		ライン	2	開講期	前期と後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：美術Ⅰ				

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す力を身に付ける。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする力を身に付ける。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	新・高校生の美術1（日本文教出版） WATCH2（秀学社）

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す力を身に付けている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする力を身に付けている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	鑑賞 なぜこれが美術なのか？ 絵画 人を表す 身近なものを描く 絵画、デザイン 色彩	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	デザイン マークやサインのデザイン 鑑賞 日本の美術 絵画 漫画の表現 デザイン ポスターのデザイン	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前3回、後1回～後3回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。  
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S	
前期	①	オリエンテーション 鑑賞／なぜこれが美術なのか？	前1	1	2	4/19	—	4/21	4/16	第1/ 6回
	3			4						
	②	絵画／人を表す	前2	1	2	5/10	—	5/12	5/7	第1/ 6回
	3	4								
	③	絵画／身近なものを描く①	前2	1	2	5/24	—	5/26	5/21	第5回
	3	4								
	④	この回は、実施されません。								
⑤	絵画／身近なものを描く②	前2				6/21	—	6/23	6/18	第5回
⑥	絵画・デザイン/色彩①	前3	1	2	7/5	—	7/7	7/2	第4回	
			3	4						
⑦	絵画・デザイン/色彩②	前3			7/19	—	7/21	7/16	第4回	
3	4									
⑧	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日					
試験	レポート前1～前3の内容 実技試験		本試験	追再試		8/23	—	8/25	8/27	
後期	⑨	デザイン／マークやサインの デザイン①	後1	1	2	10/11	—	10/13	10/8	第4回
	3			4						
	⑩	デザイン／マークやサインの デザイン②	後2			10/25	—	10/27	10/22	第4回
	3	4								
	⑪	鑑賞／日本美術 漫画の表現	後2	1	2	11/8	—	11/10	11/12	第9/ 16回
	3	4								
	⑫	この回は、実施されません。								
⑬	絵画／漫画の表現	後2				12/6	—	12/8	12/3	第9/ 16回
⑭	デザイン／ポスターのデザイン①	後3	1	2	12/20	—	12/22	12/17	第4/ 14回	
			3	4						
⑮	デザイン／ポスターのデザイン②	後3			1/10	—	1/12	1/7	第4/ 14回	
3	4									
⑯	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日					
試験	レポート後1～後3の内容 実技試験		本試験	追再試		2/7	—	2/9	2/4	

## 6 先生からのメッセージ

美術Ⅰは、表現や鑑賞を通じて、新たな視点で日常を見つめ、創作の喜びを感じたり、形や色の美しさを発見したりする科目です。制作は、丁寧に時間をかけて行ってください。できるだけすべてのスクーリングに出席しましょう。

教科・科目	芸術・美術Ⅱ	単位数	2（前期1+後期1）		
		ライン	4	開講期	前期と後期
備考					

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す力を身に付ける。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする力を身に付ける。</p> <p>(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	<p>高校生の美術2（日本文教出版）</p> <p>WATCH2（秀学社）</p>

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す力を身に付けている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする力を身に付けている。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	鑑賞 絵画 デザイン	表現とは何か 線と明暗の表現 感覚の冒険 情報を伝えるデザイン	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	デザイン 絵画 鑑賞 映像メディア表現	デザインがもたらす統一感 錯覚による不思議な世界 琳派 複数の写真で表す	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前3回、後1回～後3回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。  
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	①	オリエンテーション鑑賞/表現とは何か	前1	1	2	4/19	—	4/21	4/16	第1/ 2回	
	3			4							
	②	絵画/線と明暗の表現				5/10	—	5/12	5/7	第5回	
	③	絵画/感覚の冒険①	前2	1	2	5/24	—	5/26	5/21		
				3	4						
	④	この回は、実施されません。									
	⑤	絵画/感覚の冒険②	前2				6/21	—	6/23	6/18	
	⑥	デザイン/情報を伝えるデザイン①	前3	1	2	7/5	—	7/7	7/2	第14回	
3				4							
⑦	デザイン/情報を伝えるデザイン②				7/19	—	7/21	7/16	第14回		
⑧	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート前1～前3の内容 実技試験		本試験		追再試	8/23	—	8/25	8/27		
後期	⑨	デザイン/デザインがもたらす統一感①	後1	1	2	10/11	—	10/13	10/8		
				3	4						
	⑩	デザイン/デザインがもたらす統一感②				10/25	—	10/27	10/22		
	⑪	絵画/錯覚による不思議な世界①	後2	1	2	11/8	—	11/10	11/12		
				3	4						
	⑫	この回は、実施されません。									
	⑬	絵画/錯覚による不思議な世界②	後2				12/6	—	12/8	12/3	
	⑭	鑑賞/琳派	後3	1	2	12/20	—	12/22	12/17	第9回	
3				4							
⑮	映像メディア表現/複数の写真で表す				1/10	—	1/12	1/7	第11回		
⑯	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート後1～後3の内容 実技試験		本試験		追再試	2/7	—	2/9	2/4		

## 6 先生からのメッセージ

美術Ⅱは、制作や鑑賞を通じて表現の幅を広げ、創作の喜びを感じ、自ら生み出した形や色の美を発見する科目です。美術やデザインの役割、歴史の知識を広げ、表現を楽しみましょう。レポート及びスクーリングでは美術の基礎知識についての学習や作品制作を中心に行います。できるだけすべてのスクーリングに出席しましょう。

教科・科目	芸術・書道Ⅰ	単位数	2（前期1＋後期1）		
		ライン	2	開講期	前期と後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：書道Ⅰ				

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わいとらえたりすることを身に付ける。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	書Ⅰ（光村図書）

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	書の表現の方法や形式、多様性について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わいとらえたりすることを身に付けている。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	はじめに 書写から書道へ 文字の造形を学ぶ 漢字の書（楷書） 文字の造形を学ぶ 漢字の書（行書） 創作する 漢字の創作（行書）	・作品 ・レポート ・試験	・作品 ・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	古筆の美を学ぶ 仮名の書 創作する 漢字仮名交じりの書 生活の中の書	・作品 ・レポート ・試験	・作品 ・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前3回、後1回～後3回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。  
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	① 書写から書道へ 漢字の書（篆書・隸書）	前1	1		2		4/19	—	4/21	4/16	第1/10/ 14回
	3			4							
	② 漢字の書（楷書）	前2	1		2		5/10	—	5/12	5/7	第3回
	3			4							
	③ 漢字の書（楷書）					5/24	—	5/26	5/21	第4回	
	④	この回は、実施されません。									
	⑤ 漢字の書（楷書）	前2					6/21	—	6/23	6/18	第5回
	⑥ 漢字の書（行書）	前3	1		2		7/5	—	7/7	7/2	第7回
3			4								
⑦ 漢字の書（創作）						7/19	—	7/21	7/16	第1/2回	
⑧	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート前1～前3の内容 実技試験（硬筆）		本試験		追再試		8/23	—	8/25	8/27	
後期	⑨ 仮名の書（平仮名・変体仮名）	後1	1		2		10/11	—	10/13	10/8	第14回
	3			4							
	⑩ 仮名の書（料紙の世界）					10/25	—	10/27	10/22	第15回	
	⑪ 漢字仮名交じりの書 好きな言葉を書こう	後2	1		2		11/8	—	11/10	11/12	第2/ 19回
	3			4							
	⑫	この回は、実施されません。									
	⑬ 漢字仮名交じりの書 カレンダーをつくろう	後2					12/6	—	12/8	12/3	第2/ 19回
	⑭ 生活の中の書 年賀状をつくろう	後3	1		2		12/20	—	12/22	12/17	第17回
3			4								
⑮ 生活の中の書（封筒・はがき）						1/10	—	1/12	1/7	第17回	
⑯	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート後1～後3の内容 実技試験（硬筆）		本試験		追再試		2/7	—	2/9	2/4	

## 6 先生からのメッセージ

書道Ⅰは、漢字や仮名などを素材として、筆者の意図や感動を書で表現する科目です。さまざまな書的美を味わい、書に親しみ、それを基に自分の個性を生かした創造的表現ができるようにしましょう。実技課題があるので、できるだけ毎回のスクーリングに出席し、作品等の提出をしてください。

教科・科目	芸術・書道Ⅱ	単位数	2（前期1＋後期1）		
		ライン	4	開講期	前期と後期
備考					

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性について理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付ける。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることを身に付ける。</p> <p>(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	書Ⅱ（光村図書）

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	書の表現の方法や形式、多様性について理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることを身に付けている。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	篆刻 身の回りの書 漢字の書（隸書） 漢字の書（草書）	・作品 ・レポート ・試験	・作品 ・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	仮名の書 漢字仮名交じりの書（創作） 漢字の書（創作）	・作品 ・レポート ・試験	・作品 ・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前3回、後1回～後3回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。  
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録		添削担当者	先生				登録				
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	① 篆刻 姓名印を刻してみよう	前1	1		2		4/19	—	4/21	4/16	第18回
			3		4						
	② 篆刻 姓名印を刻してみよう	前1					5/10	—	5/12	5/7	第18回
	③ 篆刻 姓名印を刻してみよう	前1					5/24	—	5/26	5/21	第18回
	④	この回は、実施されません。									
	⑤ 身の周りの書	前2	1		2		6/21	—	6/23	6/18	第17回
3				4							
⑥ 漢字の書（隸書）	前3	1		2		7/5	—	7/7	7/2	第11回	
		3		4							
⑦ 漢字の書（草書）	前3					7/19	—	7/21	7/16	第12回	
⑧	この回は、実施されません。					教科別質問教室に出席した日					
試験	レポート前1～前3の内容 実技試験（硬筆）		本試験		追再試		8/23	—	8/25	8/27	
後期	⑨ 仮名の書（平仮名・変体仮名）	後1	1		2		10/11	—	10/13	10/8	第14/ 15回
			3		4						
	⑩ 仮名の書（古筆に学ぶ）	後1					10/25	—	10/27	10/22	第16回
	⑪ 漢字仮名交じりの書 （創作）	後2	1		2		11/8	—	11/10	11/12	第2/ 19回
			3		4						
	⑫	この回は、実施されません。									
	⑬ 漢字仮名交じりの書 カレンダーをつくらう	後2					12/6	—	12/8	12/3	第2/ 19回
⑭ 漢字の書（創作）	後3	1		2		12/20	—	12/22	12/17	第13回	
		3		4							
⑮ 漢字の書（創作）	後3					1/10	—	1/12	1/7	第13回	
⑯	この回は、実施されません。					教科別質問教室に出席した日					
試験	レポート後1～後3の内容 実技試験（硬筆）		本試験		追再試		2/7	—	2/9	2/4	

## 6 先生からのメッセージ

書道Ⅱでは、篆書や隸書、草書など古い時代の書を扱います。書道Ⅰでの学習を基に、表現と鑑賞の力を高めていきましょう。特にスクーリング①、②、③では姓名印をつくるので、可能な限り出席してください。その他のスクーリングでも実技を行いますので、できるだけ休まず出席し、作品制作に取り組んでいきましょう！